

子どものこころの発達研究センターのご紹介

子どものこころの発達研究センター発達支援研究部門 教授 ^{ともだ あけみ}
同 副センター長 友田 明美

子どもの健全な発達を支えるために必要なのは何か？ということが問われ続けています。日本は超少子社会を迎えるにあたり、一人でも多くの子どもたちの体と心の健やかな成長を手助けし、子どもたちが健全な生活を送ることができる社会をつくる必要があります。当センターでは「子どもの心」を解明・治療・支援するための研究が進行中です。脳の発達の分子・細胞レベルでの研究や、ヒトの脳の活動を可視化し脳の機能的発達を追う基礎的な研究、不登校や引きこもり、犯罪の低年齢化、発達障害など、子どもの心の問題を解明し治療・支援するための数多くの研究や活動が展開されており、それぞれの分野の専門家が多数そろっています。

昨年度まで当センターは5部門（こころの形成発達研究部門、発達脳機能イメージング部門、こころの発達開拓部門、こころの地域のネットワーク支援室、Age2企画部門）に分かれていましたが、今年度から脳機能発達研究部門、情動認知発達研究部門、発達支援研究部門の3部門へ統合しました（図）。この改組により、当センターと学内の他機関（学部・研究科・センター等）との効率的な連携がより一層見込まれ、「子どものこころの諸問題」の研究・教育・診療・社会貢献の協力体制の強化が図られることが期待されます。特に、昨年度より当センターで採択された日本医療

研究開発機構（AMED）の受託研究「発達障がい診断システムの基礎データ収集とアルゴリズム開発・予備試験の実施」、JST社会技術研究開発センター（RISTEX）の受託研究「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」、文部科学省いじめ対策等生徒指導推進事業「子どもみんなプロジェクト」の成果につながるよう、福井県・永平寺町のほか、連携する他大学と協働して取り組んでいます。

また、当センターのメンバーが所属する大阪大学・金沢大学・浜松医科大学

大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による学際的見地に立脚した大学院連合小児発達学研究科では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組んでいます。

さまざまな子どもの心の謎や疑問に対する解明に向けては未だ問題が山積しています。これからも、次世代を担う子どもたちに資する成果が当センターから発信できるよう全スタッフが励んで参りますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

子どものこころの発達研究センターの紹介

